

## 第4回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成27年5月18日(月) 15:00 - 17:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、植木委員、後藤委員、柴崎委員、高山委員、山川委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官、奥野宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙民生利用に関する動向と課題について

資料1及び資料2に基づき、関係者よりプレゼンテーションが行われた。これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、説明者回答)

自動車の自動運転技術に関して、準天頂衛星を使うことによるコスト面等での課題はあるのか。

自動車には元々GPSの受信システムがあるので、大きな追加コストはないと思う。

自動運転にセンチメートルレベルの電子地図は必要なのか。

自動車を円滑に走行させるための実証研究には必要であるが、車載カメラ等もあるため、実用段階でどうなるかは今後の検討を待つ必要がある。

ICT・ロボット農業に関して、ビックデータを利用した農業支援サービスの提供主体はどういう産業になるのか。

ITベンチャーや農機メーカーに加え、農業は地域性が極めて強いため、地域に根差した組織がサービス提供者になることが考えられる。

中山間地での農業やグローバル農業のために通信衛星を利用する可能性はあるのか。例えば中山間地では通信インフラが十分でないところもあるため、安定した通信環境が提供されるのであれば、通信衛星は有用である。

(2) 技術試験衛星について

資料3及び資料4に基づき、総務省より説明が行われた。これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、発表者等回答)

米国では多数の小型通信衛星を打ち上げた衛星インターネットが話題となっているが、この背景は何か。

米国内ではブロードバンド環境が十分でないところもあることから、そのような地域向けのサービスを念頭に置くとともに、米国内だけでなく、途上国のマーケット獲得も狙っていると考えられる。

( 3 ) 宇宙システム海外展開 TF ( 仮称 ) 等について

事務局より説明があり、これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。

海外への宇宙システムの売込みを進めるに当たっては、国や地域ごとに状況が異なることを踏まえ、日本の強みのある宇宙技術を生かしつつ、相手の課題に合わせてカスタマイズしていくべきではないか。

大きなシステムを売り込むにはトップセールスが重要なので、政府のトップレベルにもタスクフォースの情報を共有すべき。

海外の国や地域では、宇宙技術そのものに関心がある場合と、海外の国や地域の問題解決に向けた全体のシステムの中の一部として宇宙が関わる場合の 2 通りがあるので、それぞれについて考えていく必要がある。

国、地域別の情報収集や取組を通じて得られた知見、ノウハウが着実に継承されていくことが重要である。

大学や在外公館などの様々なレベルを通じて、各国の宇宙に関するキーパーソンとのネットワークを構築していくことが重要ではないか。

可能なところから行動を起こし、まず成功事例を作っていくことが重要である。

( 3 ) 宇宙関連の法制度整備等について

資料 5 に基づき、事務局より説明が行われた。これを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。

宇宙活動法ができることによって政府や JAXA の既存の活動が阻害されないように配慮すべき。

引き続き、ベンチャーを含めた関係企業の意見をよく聴取していくべき。

以 上